

## 西江喜春さん人間国宝に 県内、芸能で6人目

2011年7月15日



11

国の文化審議会(西原鈴子会長)は15日、国指定重要無形文化財「組踊音楽歌三線」(各個認定)保持者=人間国宝=に琉球古典音楽の安富祖流絃聲会会長・西江喜春氏(70)=那覇市仲井真在、伊平屋村出身=を新たに認定するよう高木義明文科相へ答申した。

国指定重要無形文化財保持者の中でも分野別の高度な技術を認められる「各個認定」を受けた者は通称「人間国宝」と呼ばれる。県内では11人目。芸能分野では「琉球古典音楽」の島袋正雄氏と照喜名朝一氏(2000年)、「組踊音楽太鼓」の故・島袋光史氏(03年)、「組踊音楽歌三線」の城間徳太郎氏(05年)、「組踊立方」の宮城能鳳氏(06年)に続いて6人目となる。

今回は西江氏と歌舞伎立役の中村吉衛門(本名・波野辰次郎)氏(67)=東京都=の2人が新たに認定を答申された。9月下旬ごろ、官報に告示され正式認定となる。【琉球新報電子版】 注:城間徳太郎の「徳」は「心」の上に「一」



「組踊音楽歌三線」で人間国宝に認定されることになった西江喜春さん=那覇市仲井真の自宅

国の文化審議会(西原鈴子会長)は15日、国指定重要無形文化財「組踊音楽歌三線」(各個認定)保持者=人間国宝=に琉球古典音楽・安富祖流絃聲会(げんせいかい)会長の西江喜春氏(70)=那覇市仲井真、伊平屋村出身=を認定するよう高木義明文科相へ答申した。



「組踊音楽歌三線」で人間国宝に認定されることになった西江喜春氏

重要無形文化財保持者の中でも個別の高度な技術を認められる「各個認定」を受けた場合、通称「人間国宝」と呼ばれる。県内では11人目。芸能分野では「琉球古典音楽」の島袋正雄氏、照喜名朝一氏、「組踊音楽太鼓」の故・島袋光史氏、「組踊音楽歌三線」の城間徳太郎氏、「組踊立方」の宮城能鳳氏に続いて6人目。

今回は西江氏と歌舞伎立役の中村吉右衛門(本名・波野辰次郎)氏(67)=東京都=の2人が新たに認定を答申された。9月下旬ごろ、官報に告示され正式認定となる。現在、活動中の人間国宝の人数は、東京(49人)、京都(14人)、石川(9人)に次いで沖縄(8人)が全国4番目となる。

組踊音楽歌三線は、組踊の各場面の背景や登場人物の心情などを繊細な三線の演奏に乗せて歌う。演技者のせりふの最後にかかるように歌い出したり、動作に応じて微妙な緩急をつけるなど組踊の筋の展開や演技、せりふに合わせて表現する。

文化庁は西江氏を「長年の研さんで組踊音楽歌三線の伝統的な演奏技法を高度に体現するに至った。組踊の登場人物の心情や各場面の背景などを繊細かつ情感豊かに歌い出す表現力と技芸的的確さ、安定感で高い評価を得ている。後継者育成や組踊の振興にも尽力している」と評価した。

## 今からの勉強大きい

西江喜春氏の話 今からの勉強が大きい。一から勉強しなさいというように捉えている。いろんな催し物、どういう場所でも組踊の歌を歌いたい。大変なプレッシャーだし、責任も感じる。個人として認定されるので、それ相当の勉強をしなくてはならない。

西江喜春氏(にしえ・きしゅん) 1940年、伊平屋村生まれ。63年に安富祖流の故・宮里春行氏に入門し琉球古典音楽を学ぶ。県指定無形文化財では96年に「沖縄伝統舞踊」保持者、99年に「沖縄伝統音楽安富祖流」保持者に認定。国指定重要無形文化財(総合認定)では2001年に「組踊」、09年に「琉球舞踊」の保持者となった。県立芸大の助教授や教授も務め若手の育成にも貢献。08年から伝統組踊保存会常任理事、安富祖流絃聲会会長。